漢文教科書に見る咸宜園関係者の漢詩文採録について
―戦前期と現在を比較して―

川邉　雄大

キーワード　広瀬淡窓・桂林荘雑詠示諸生・日本漢詩・古典Ｂ

はじめに

広瀬淡窓・旭荘をはじめ、咸宜園関係者の漢詩は、古くから日本人に親しまれてきた。

これらの漢詩は、江戸期には刊本あるいは写本によって広まり受容されていったと考えられる。しかし、明治以降とくに中等教育が整備されるにつれて、従来のように漢詩集ではなく、漢文教科書に採録されたことによって、受容されていったのではないかと、筆者は想定した。

平成三十年度の咸宜園教育研究センター研究奨励事業に、筆者の申請した研究題目「漢文教科書および漢詩集に採録された咸宜園関係者の漢詩文に関する研究」が採択された。また、同年度からは科研費「戦前期に日本国内（内地）・台湾・朝鮮で使用された漢文教科書に関する基礎的研究」（研究課題番号：18K02316、研究代表者：町泉寿郎二松学舎大学教授）の研究協力者を担当し、主に戦前期に使用された漢文教科書の研究を進めてきた。

本稿では、筆者が主に玉川大学等で調査した漢文教科書（戦前期・現在）をもとに、戦前期（明治～昭和二十年）と現在の漢文教科書を比較検討することによって、咸宜園関係者の漢詩の採択や、その受容状況について明らかにするものである。

なお、本稿末尾に戦前期の日本国内（内地）・台湾・朝鮮で使用された漢文教科書ならびに高等学校で現在使用されている国語教科書「古典Ｂ」の二十六種類の書名・出版元・刊行年等を【参考資料】①～㉖（Ⅰ内地（戦前）・Ⅱ台湾・Ⅲ朝鮮）として掲載した。

一、戦前期の教科書における採録状況

本章では、筆者がこれまでに調査した漢文教科書をもとに、戦前期の教科書における咸宜園関係者の漢詩の採録状況について触れてみたい。

本稿末尾に掲載した【参考資料】①～㉖を見てみると、戦前期の漢文教科書の特徴の一つは、日本人の漢詩文を、場合によっては当時存命中の人物の作品を多数採録していることである。

まず、戦前戦中期の日本国内（内地）の中等学校等で使用された漢文教科書【参考資料】①～⑮をもとに、咸宜園関係者の漢詩文の採録状況について見ていきたい。

広瀬淡窓（広瀬建）「桂林荘雑詠示諸生」・広瀬旭荘「筑前城下作」が多くの教科書で取られている。このほかにも、淡窓「朝鋭昼悟」・「偶成」・「択友」・「一刻千金」・「莫如択友」・「春景」や、旭荘「茶山寛厚」・広瀬青邨（広瀬範）「富士山図」・長三洲（長茂）「元日望富嶽雪色」などが採録されている。また、咸宜園の客席生であった月性「将東遊要題」も多くの教科書に採録されている。

次に、戦前期の台湾で使用された漢文教科書【参考資料】⑯～⑱に採録された、咸宜園関係者の漢詩文について見ていきたい。

【参考資料】⑯『公学校高等科用　漢文読本』巻二（台湾総督府、大正十二年）（注1）では「題壁」釈月性や、国語学校（師範学校に相当）で使用された⑰『稿本漢文教程』巻一（台湾総督府国語学校校友会、大正三年）では当時存命中の人物の漢詩文や、尺牘（書翰）にまじって淡窓「桂林荘雑詠示諸生」が採録されている。また、⑱『師範学校台語科用漢文読本』（台湾総督府台南高等師範学校校友会、昭和二年）も「桂林荘雑詠示諸生」を採録する。

さらに、戦前期の朝鮮で使用された漢文教科書【参考資料】⑲～㉒にも、咸宜園関係者の漢詩文が見られる。

【参考資料】⑲『中等教育朝鮮語及漢文読本』巻五（朝鮮総督府、昭和十一年か）には、「附僧五岳題桃源図詩」（平野五岳「桃源図詩」、※訓点なし、朝鮮語による解説・懸吐あり）（注2）が、⑳「中等教育漢文読本」巻一（朝鮮総督府、昭和五年）では「択友」広瀬建が、㉑同巻三（朝鮮総督府、昭和五年）では「桂林荘雑詠示諸生」広瀬建（※訓点送り仮名あり）が、㉒同巻四（朝鮮総督府、昭和五年）では「商法必読書」亀谷行（※訓点、朝鮮人学生による日本語の書入れ

あり）などが採録されている。

このほか、戦前期の日本国内（内地）の女学校で使用された【参考資料】⑮「皇国女子漢文」（加藤虎之亮（注3）編、中等学校教科書株式会社、昭和十三年）では「偶成」広瀬淡窗が、陸軍豫科士官学校で使用された⑭『国漢文教程乙』第二巻・思想文化篇（陸軍豫科士官学校用、教育総監部、昭和十九年）では「筑前城下作」広瀬謙が採録されている。

筆者が当初予想していたよりも採録状況は低いものの、旧制中学や外地（台湾・朝鮮）のみならず、女学校、さらには軍関係の学校（注4）などにおいて、生徒が咸宜園関係者の漢詩に触れる機会は極めて高かったといえる。

さらにくわしく見ていくと、【参考資料】③『新制中等漢文第二学年用』（手塚良道、英進社、昭和十一年）では「偶成　一」広瀬淡窓・「筑前城下作」広瀬淡窓のほか、（学生吟）として「将出題壁」僧月性・「桂林荘雑詠示諸生」広瀬淡窓が、④『新制中等漢文第三学年用』（手塚良道、英進社、昭和十二年）では「桂林荘雑詠示諸生」広瀬淡窓が採録されている。

また、⑦『聖代漢文　第一学年用』（高瀬武次郎、細野書店、昭和十二年）では「茶山寛厚」広瀬旭荘が、⑧『聖代漢文　第二学年用』（高瀬武次郎、細野書店、昭和十二年）では「欲出題壁」僧月性・「桂林荘雑詠示諸生」広瀬淡窓・「筑前城下作」広瀬旭窓が採録されている。

つづけて、⑩『新撰漢文教科書　三訂版』巻一（飯島忠夫、三省堂、昭和十一年修訂六版）では、「出家題壁」僧月性・「一刻千金」広瀬建・「筑前城下作」広瀬建・「莫如択友」広瀬建が、⑪『新撰漢文教科書　三訂版』巻三（飯島忠夫、三省堂、昭和十一年修訂六版）では「桂林荘雑詠示諸生」広瀬淡窓が採録されている。

これは、旧制中学五年間に複数年次にわたって咸宜園関係者の漢詩文に触れたことを意味する。また、【参考資料】③『新制中等漢文第二学年用』（手塚良道、英進社、昭和十一年）のように広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」や月性「将出題壁」をはじめとする作品を詩吟・学生吟に入れていることや、学生寮などでは寮歌のようにして吟じていた例があることから、咸宜園関係者の漢詩は単に授業で習うだけでなく、学生吟・詩吟という分野においても親しまれていたといえる。

二、現在の教科書における採録状況

次に、現在おもに普通科高校で使用されている国語科教科書「古典B」を例に、咸宜園関係者の漢詩文の採録状況について見ていきたい。

現在、高校で使用されている国語・古典の教科書うち、【参考資料】㉓『精選古典B　漢文編』（教育出版株式会社、平成三十年）、㉔『新編古典B』（東京書籍株式会社、平成二十九年検定済、平成三十年発行）、㉕『高等学校古典B　漢文編　改訂版』（三省堂、平成二十九年検定済、平成三十年発行）、㉖『精選　古典B　改訂版』（大修館書店、平成三十年）の四点が咸宜園関係者の漢詩を採録しているが、いずれも日本漢詩という範疇に位置づけられ、広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」・月性「将東遊題壁」（㉖のみ）のみとなっている。しかも、戦前とは異なり、採録する作品の多くは中国人の漢詩文であり、現在の高校における漢文教育においては、咸宜園関係者を含めた日本の漢詩文に触れる機会は極めて少ないといえる。これだけでも、戦前期と現在との採録状況は大きく異なることが分かる。

昭和三十一年（一九五六）の指導要録（改訂版）「国語甲」には、「（3）漢文については、入門の学習に必要な材料、およびわが国の文学や思想に深い影響を与えた作品、たとえば、下記のようなものについて、生徒の能力や必要や関心などを考慮して、適当な部分を選ぶ。なお、下記のほか、適切なものを選んでもさしつかえない。たとえば、短句・短文・故事・成語・格言・ことわざなどで訓読練習に適当なものや、論語・孟子（もうし）・老子・荘子・韓非子（かんぴし）などの論説類、十八史略・史記・蒙求（もうぎゅう）・日本外史・先哲叢談（そうだん）などの史伝類、近思録・言志録などの語録類、文章軌範・古文真宝・唐宋八家文・唐詩選・白氏文集・和漢朗詠集などの詩文類など。」とり、日本漢詩文の採録は認められているものの、実際の採録は低調であった（注5）。

筆者はこれまでに関係者（大学・高校教員）から聞いた話では、戦前・戦中に日本漢詩文が軍国主義教育に荷担したとみなされた結果、戦後は日本の漢詩文が採録されないようになり、あわせて中国文学・哲学関係の大学教員が漢文教科書を編輯するようになり、中国人の漢詩文を中心に採録されるようになったからだとされる。しかしながら、前出の指導要録では必ずしも日本漢詩文の採録を禁止していないので、この点については更なる検討が必要であろう。

その後、平成元年となって漢文教育における日本漢詩文の取扱いが大きく変わることとなった。平成元年三月に策定された学習指導要領では、（古典Ⅰ）に「（4）　教材には、日本漢文も含めるよう留意する。また、必要に応じて近代以降の文語文や漢詩文などを用いることができる。」との文言が入り、日本漢文の採録が義務化されたのである。そして、これは平成十一年度・平成十八年度の指導要録においても同様の文言が挿入されている。

平成二十年度に改正された現行の学習指導要領では、主に職業高校などで使用される（古典A）について「イ　教材には、古典に関連する近代以降の文章を含めること。また、必要に応じて日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを用いることができること。」とあり、（古典B）（※主に普通科高校などで使用）には、「イ　教材には、日本漢文を含めること。また、必要に応じて近代以降の文語文や漢詩文、古典についての評論文などを用いることができること。」との文言が入った。

さらに、平成三十年度に制定された新学習指導要領では、国語は以下の区分へと変更された。

必修「国語総合」（4単位）→「現代の国語」（2単位）・「言語文化」（2単位）
選択「古典B」（4単位）→「古典探求」（4単位）
選択「現代文」（4単位）→「論理国語」（4単位）、「文学国語」（4単位）

「言語文化」については、「ア　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、古典及び近代以降の文章とし、日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを含めるとともに、我が国の言語文化への理解を深める学習に資するよう、我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章を取り上げること。」とあり、「日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文など」の採録が義務化されている。

「古典探求」については「ア　内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A読むこと」の教材は、古典としての古文及び漢文とし、日本漢文を含めるとともに、論理的に考える力を伸ばすよう、古典における論理的な文章を取り上げること。また、必要に応じて、近代以降の文語文や漢詩文、古典についての評論文などを用いることができること。」とあり、日本漢文の採録が義務化されている。

三、現在の教科書における「桂林荘雑詠示諸生」の位置づけ―指導書を例として

では、現在古典教科書に採録されている淡窓の漢詩は、いかなる目的により採録され、授業ではいかに扱われているのだろうか。

まず、【参考資料】㉓『精選古典B　漢文編』（教育出版株式会社、平成三十年）の指導書『精選古典B　漢文編　教授資料 1 』（教育出版）をもとに見ていきたい。

同教科書では、日本の漢詩文として五点が採録されているが、指導書では日本の漢詩文について、はじめに「学習目標」を挙げて「日本の漢詩を読み、中国文化が日本に与えた影響について理解する」としている。そして、「学習の流れ」として、①詩の形式・押韻を理解する。②基本的な句型を理解する。③詩にこめられた、作者の心情を読み取る。という三点を挙げている。

次に、「授業展開例」として〈導入〉では、「日本人の作った漢詩について知る」ため、日本における漢字・漢語・漢文の受容について触れている。具体的には、遣唐使から遡って、平安初期・五山文学・江戸漢学（菅茶山「冬夜読書」・広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」）までの中国文化受容のあらましを整理するとしている。その後、淡窓をはじめとする各漢詩について触れている。なお、本指導書では「日本の漢詩文」について」という項目を設け、平安時代の漢文学・江戸時代の漢文学（1史書・2漢詩関係の書物・3翻訳、翻案・4俳句への影響）・明治以降の漢文学について概説を行っている。

続けて、「授業展開例」では広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」について、まず「目標」として「作者の心境を読み取る」とする。次に「学習活動」として、1「詩形・押韻について確認する」、2「脚注を参考にして現代語訳する」、3「塾生たちの生活がどのように描かれているか読み取る、4「作者が「諸生」に伝えたいと思ったことは何かを読み取る。〔道標1〕」となっている。そして最後に「指導上の留意点・観点別評価の基準と方法」として、3「結句の内容から、共同生活の様を読み取らせる」、4「桂林荘の主宰者（塾主）としての立場を踏まえて考えさせる。 知 読者の信教を読み取れている。（発言・ワークシート・定期考査など）／ 読・知 本文を正しく現代語訳し、展開に即して内容を的確に捉えている。（発

言・ノート・考査)、となっている。

さらに、広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」については、三頁にわたって解説がなされており、①作品・②出典・③作者・④主題・⑤構成・⑥発問例・⑦解釈と解説・⑧道標の解説（この詩にうたわれている作者の思いや情景について）・⑨参考（鑑賞と研究・「桂林荘雑詠示諸生」其の一）・⑩参考文献からなっている。

①「作品」については『遠思楼詩鈔』初編・二編を明記し、②「出典」として菅野礼行・国金海二『日本漢文』（大修館書店、一九九〇）を明記する。③「作者」では、広瀬淡窓の生歿年・事蹟・咸宜園の教育と門下生・著作などについて触れている。④「主題」では、「塾での共同生活の喜びと心得を示し、故郷を離れて勉学する塾生を激励する」としている。⑤「構成」では、詩形（七言絶句）・押韻（辛・親・薪（平声真韻））についてのべ、書き下し文・現代語訳を載せている。⑥「発問例」では、「1第一句の「辛苦」とは具体的にはどのようなことが考えられるか。2第三句からどんなイメージが喚起されるか。3第四句から、塾でのどのような生活ぶりが読み取れるか」の三例とその模範解答を示している。⑦「解釈と解説」では、標題の桂林荘および雑詠、語彙については休道・他郷・辛苦・同袍・柴扉についての解説が附されている。⑧「道標の解説」では、「この詩にうたわれている作者の思いや情景について、各句の展開に注意しながら考えてみよう」と述べ、解答例を示している。⑨「参考」では、まず「鑑賞と研究」として本作品四首連作の其の二に該当する点や、其の一の白文と書き下し文を載せ、咸宜園は北九州（筑前・築後・肥前・肥後・豊前・豊後）はもとより全国から多くの門下生が豊後日田に集まった旨が概説されている。⑩「参考文献」では、「本文・注釈書」として、山岸徳平『五山文学集　江戸漢詩集』（岩波書店、一九六六）・猪口篤志『日本漢詩　上』（明治書院、一九七二）・岡村繁注『広瀬淡窓・広瀬旭荘』（岩波書店、一九九一）の三点を挙げている。

つづけて、㉖『精選　古典B　改訂版』（大修館書店、平成三十年）の指導書である『精選　古典B　改訂版　指導資料 3 』（大修館書店、平成三十年）について見ていきたい。

本教科書では、「わが国の漢詩」として広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」が採録されているが、本指導書の指導内容は以下の通りである。①大意、②構成、③書き下し文、④現代語訳、⑤語句の解説、⑥指導のポイント、⑦鑑賞、⑧参考、⑨〔脚問〕の解説の八点からなっている。

冒頭では、「この詩は、桂林荘でともに学ぶ塾生たちに与えたものであるが、友情をはぐくみ、学問にいそしむ姿が生き生きとうたわれている」とあり、①「大意」においても「桂林荘に学ぶ塾生たちが仲良く助け合って学問に励むさまをうたい、激励した詩（三七字）」とある。なお、⑥指導のポイント、⑦鑑賞においても、故郷を離れて咸宜園にやってきた門弟たちが助け合いながら、友情をはぐくみ、勉学に励む姿が強調されているように、本詩のテーマとして「友情」・「学問」を挙げている。そして、参考として本詩の第一首目の原文と現代語訳を挙げている。

淡窓の次に収録する月性「将東遊題壁」についても、淡窓同様①から⑧の八点に亙る指導点が列挙されているが、本詩のテーマは「学問に志し故郷を後にする青年の決意」（冒頭）が強調されている。

なお、本指導書には『精選　古典B　総合問題集　漢文編』（大修館書店、二〇一八年）・『精選　古典B　基本問題集　漢文編』（大修館書店、二〇一八年）が附随している。

前者では、淡窓詩については①押韻している文字をすべて答えよ、傍線部の読みをひらがな（現代仮名遣い）で記せ、③傍線部の意味を答えよ、④空欄に入る適当な語を次のア～オから一つえらび、記号で答えよ、⑤この詩は、作者広瀬淡窓がどのような立場から、どのような心情をうたったものか。わかりやすく説明せよ、という五問からなっている。月性詩については、①傍線部とほぼ同じ意味で用いられる語を次のア～オから一つ選び、記号で答えよ、②第二句の空欄に入る最も適当な語をア～オから一つ選び、記号で答えよ、③傍線部を適当な送り仮名を補って書き下し文に改めよ、④傍線部を現代語訳せよ、⑤この詩の内容として最も適当なものを次のア～オから一つ選び、記号で答えよ、の五問からなっている。

後者の問題集では、採録する「わが国の漢詩」四首について、①傍線部分の読みを、送り仮名も含めてひらがな（現代仮名遣い）で記せ、②次の漢文をひらがな（現代仮名遣い）のみで記せ、③次の漢文を書き下し文に改めよ、④傍線部分の語句の意味として適当なものを、後のア～ウから選び、記号で答えよ、の四問について、それぞれ四首の日本の一部分を取り上げている。

このように、淡窓詩については「友情」・「学問」・「作者（淡窓）の思い」が、

月性詩については「学問に志し故郷を後にする青年の決意」がテーマとなっていることが分かる。

そして、指導書によってさまざまな出典・参考文献・模範解答があり、練習問題を附録するものもあるように、教科書と比べて執筆者の見解がそのまま反映されることが多い（注6）。

おわりに

以上、筆者がこれまで調査した漢文テキストをもとに、戦前期と現在の漢文教科書における咸宜園関係者の漢詩の採録について検討してきた。

戦前期の教科書には現在よりもはるかに多くの日本漢詩が採録され、筆者が当初想定していたほどでないものの、咸宜園関係者の漢詩文も淡窓・旭荘をはじめ、広瀬青村・長三洲・亀谷省軒・平野五岳・月性の漢詩文も採録されていた。そして、中等教育五年間の間に複数年次に亙って咸宜園関係者の漢詩文に触れた可能性は非常に高いことや、授業のほかにも学生吟・詩吟など通じて咸宜園関係者の漢詩文に触れる機会があったことが判明した。

一方、戦後は咸宜園関係者のみならず日本漢文の採録自体が低調となったが、平成元年に策定された学習指導要領によって日本漢文の採録が義務づけられた。

しかし、採録される日本漢文は三点ないし六点と、教科書全体の中では非常に少なく、咸宜園関係者の漢詩文は広瀬淡窓「桂林荘雑詠示諸生」と月性「将東遊題壁」のみであり、採録する教科書は必ずしも多くない。

つまり、現在では漢文授業・漢文教科書をつうじて広瀬淡窓の漢詩について触れる機会は非常に少なく、広瀬旭荘や月性を除く咸宜園門下生の漢詩について触れることは皆無である。

しかも、限られた漢文の授業数（週一回程度）や現行のカリキュラムからみて、日本漢文の採録を大幅に増やすことは難しい。そのため、今後さらに咸宜園関係者の漢詩が漢文教育の現場で取り扱われる機会が増加することは、極めて難しいのではないだろうか。

今後の課題としては、戦前期の漢文教科書について調査・収集をつづけるとともに、修身・国語などの教科書についても注意する必要があると考える。

とくに、戦前戦中期に最も多く旧制中学で使用された『新修漢文』四冊（簡野道明、明治書院）（注7）について、本稿では触れることができなかった。同教科書は「改制版」や戦中期に使用された版があり、これらを比較検討する必要があると考えている。

また、現在についても戦前と同様、他教科（国語・道徳・倫理）の教科書や中学教科書についても配慮する必要があると考えているが、これらの点については今後の課題としたい。

【参考資料】

Ⅰ　日本国内（内地、戦前）　※所蔵元の明示なきものは、玉川大学所蔵。

①『実業養正新漢文』巻二（小林好日編、盛林堂、昭和十三年再版）。
「朝鋭昼悟」広瀬淡窓・「筑前城下作」広瀬淡窓。

②『漢文一』（中等学校教科書株式会社、昭和二十二年）。
「桂林荘雑詠示諸生」広瀬建。

③『新制中等漢文第二学年用』（手塚良道、英進社、昭和十一年）。
「偶　成　一」広瀬淡窓・「筑前城下作」広瀬淡窓。
（学生吟）「将出題壁」僧月性・「桂林荘雑詠示諸生」広瀬淡窓。

④『新制中等漢文第三学年用』（手塚良道、英進社、昭和十二年）。
「桂林荘雑詠示諸生」広瀬淡窓。

⑤『新修最新漢文読本第二編』（服部宇之吉、富山房、昭和十二年訂正再版）。
「桂林荘雑詠示諸生」広瀬建・「富士山図」広瀬範・「元日望富嶽雪色」長茨

⑥『新訂中等漢文』巻二（□文堂、昭和十二年訂正再版）。
「筑前城下作」広瀬淡窓。

⑦『聖代漢文　第一学年用』（高瀬武次郎、細野書店、昭和十二年）。

「茶山寛厚」広瀬旭荘。

⑧『聖代漢文　第二学年用』（高瀬武次郎、細野書店、昭和十二年）。
「欲出題壁」僧月性・「桂林荘雑詠示諸生」広瀬淡窓・「筑前城下作」広瀬淡窓。

⑨『新漢文　入門篇』（小柳司喜太、修文館、昭和十年）。
「択友」広瀬建。

⑩『新撰漢文教科書　三訂版』巻一（飯島忠夫、三省堂、昭和十一年修訂六版）。
「出家題壁」僧月性・「一刻千金」広瀬建・「筑前城下作」広瀬建・「莫如択友」広瀬建。

⑪『新撰漢文教科書　三訂版』巻三（飯島忠夫、三省堂、昭和十一年修訂六版）。
「桂林荘雑詠示諸生」広瀬淡窓。

⑫『新撰漢文教科書教授参考書』巻一（三省堂編、昭和十三年、三省堂）。
「春景」広瀬建。

⑬新撰漢文教科書教授参考書』巻一（三省堂編、昭和十三年、三省堂）。
「桂林荘雑詠示諸生　録其一」広瀬建。

⑭『国漢文教程乙』第二巻・思想文化篇（陸軍豫科士官学校用、教育総監部、昭和十九年。陸上自衛隊広報センター所蔵）
「大学」、「中庸」、「拘幽操」山崎闇斎、「「拘幽操師説」浅見絅斎、「闢邪小言序」大橋訥庵、「保建大記」栗山潜鋒・谷秦山、「伝習録抄」、「集義和書抄」熊沢蕃山、「周易抄」、「尚書抄」、「毛詩抄」、「春秋左氏伝抄」、〔漢詩〕「草昧創造」副島種臣、「大哉神器訓」元田永孚、「飲酒」晉陶淵明、「後出塞」唐杜甫、「南将軍廟行」清王士禎、「啾啾吟」明王守仁、「詠富士山」柴野邦彦、「筑前城下作」広瀬謙、「黄鶴楼」唐崔顥、「初到建寧賦詩」宋謝枋得、「偶成」梁川孟緯、「竹里館」唐王維、「独座敬亭山」唐李白、「八陣図」唐杜甫、「江雪」唐柳宗元、「山居雑詩」金元好問、「偶成」伊達政宗、「先妣十七回忌祭」菅晉帥、「中秋無月侍母」頼襄、「失題」西郷隆盛、「桜花行」副島種臣、「従軍行」唐王昌齢、「暮春帰故山草堂」、「題楚昭王廟」唐韓愈、「赤壁」唐杜牧、「梅花」宋蘇軾、「水口行舟」宋朱熹、「泛海」明王守仁、「凱歌」明沈明臣、「老子」、「荘子」（逍遙遊）、「管子抄」、「孫子抄」、「呉子抄」。

⑮『皇国女子漢文』（加藤虎之亮編、中等学校教科書株式会社、昭和十三年）。二松学舎大学東アジア学術総合研究所蔵
「教育勅語」（漢文）、「皇国」、「東風解凍」、「春三題」（「偶成」広瀬淡窓、「絶句」唐杜甫、「題斎安壁」宋王安石）、「明治天皇」、「未学漢文」、「勧学」晉陶淵明、「偶成」宋朱晦庵、「勧学文」同、「孟母」漢劉向、「菅公忠愛」青山延于、「道灌学国歌」岡松甕谷、「春日謡」、「孔孟之道」原念斎、「松下禅尼」徳川光圀、「寒夜脱御衣」青山延于、「国体尊厳」舎人親王、「自警十条」室鳩巣、「夏三題」（「初夏」宋司馬温公、「初夏即事」王安石、「夏昼」大窪詩仏）、「暖酒焼紅葉」青山延于、「詔勧農桑」徳川光圀、「憐農」唐李紳、「夏歌」無名氏、「営家之女」唐宋若昭、「延誉新誌叙」中村敬宇、「先妣十七回忌祭、従郷列香、涙餘賦此」菅茶山、「孝子伝」（「橘逸勢女」青山延于、「姉弟孝養」飯田忠彦、「珠崖二義」劉向、「故事熟語」、「良妻賢母」中村敬宇、「良妻伝」（「上毛野形名妻」巌垣松苗、「蝘蜓感婦」頼山陽、「観曳布瀑游摩耶山記」斎藤拙堂、「故事熟語」、「大楠公」頼山陽、「小楠公」頼山陽、「芳野三絶」（「芳野花下有感」頼杏坪、「芳野」藤井竹外、「芳野懐古」河野鉄兜、「山行」唐杜牧、「山房観楓記」斎藤拙堂、「秋三題」（「謝亭送別」唐許渾、「汾上驚秋」唐蘇頲、「秋風辞」漢武帝）、「賢母伝」（「侃母戴髪」唐房喬、「崔氏励物」北斉魏収、「賈母倚門」劉向、「才媛伝」山下直温（紫式部、清少納言、小式部内侍）、「烈婦伝」（「王陵之母」劉向、「京師節女」同）、「冬二題」（「冬初出游」宋陸放翁、「冬夜読書」菅茶山）、「唐虞之治」元曾先之、「禹王功業」曾先之、「黄河」竹添井井、「征戍四絶」（「涼州詞」唐王之渙、「涼州詞」唐王翰、「従軍行」唐王昌齢、「従軍行」同）、「呉越之争」曾先之、「煬帝開河渠」曾先之、「隆中之対」同、「蜀相」杜甫、「三峡之険」竹添井井、「岳陽楼記」宋范仲淹、「春夜宴桃李園序」李白、「女訓」（「婚姻」宋劉子澄、「家政」同、「胎教」劉向）、「孔

子」、「孔子賛」宋米芾、「弘道館記」徳川斉昭、〔附録〕「前赤壁賦」宋蘇東坡、「閲江楼記」明宋濂、「出師表」蜀漢諸葛孔明、「論語抄」、「孟子抄」、「大学抄」、「中庸抄」。

Ⅱ　台湾（戦前）

⑯『公学校高等科用　漢文読本』巻二（台湾総督府、大正十二年）。

「分業之利益」、「図書館」、「謝旅中受恵啓」、「干支」・「歳事」・「地名」、「博物館」、「託帯物件啓」、「孟子抄」、「故事二則」、「動物的保護色」、「成語」、「東宮安抵英京」、「催代購物啓」、「規力学啓」、「馬援誡兄子」、「薦厮役啓」、「聯句」、「喜雨亭記」、「訃状」、「公弔啓」、「祝某翁六秩寿序」、「漢詩六首」（「送元二使安西」王維・「楓橋夜泊」張継・「山行」杜牧・「田家」范成大・「題壁」釈月性・「書懐」乃木希典）、「疏広請以賜金買田宅対」、「催到店啓」、「婚書（乾）」、「婚書（坤）」、「春夜宴桃李園序」、「周遊世界（一）」、「周遊世界（二）」、「亡教育者招魂碑文」、「台民奉悼文」、「今上即位礼日勅語」。※訓点なし（台湾語または客家語による直読）。

⑰『稿本漢文教程』巻一（台湾総督府国語学校校友会、大正三年）。

「教育勅語」、「濱祚之隆」日本書紀、「秋津洲」日本書紀、「神武天皇」国史略、「天壌無窮」原文川田剛、「国体」藤田彪、「忠孝一本」藤田彪、「論語抄一」、「子在外稟父」尺牘、「時令便用」、「文字部首一」、「徂徠惜分陰」原著、「光陰有餘」中村正直、「早起之益」中村正直、「習説」尾藤孝肇、「三名医」土屋弘、「忠興善喩」塩谷世弘、「論語抄二」、「勧学文」唐白居易、「又」宋朱熹、「山行示同志」草場韡、「勧学歌」晉陶潛、「勧学詩」朱熹、「約伴訪友啓」尺牘、「規力学」尺牘、「時令便用」、「文字部首二」、「日本海海戦」（原文依田朝宗）、「論語抄三」、「此一戦」国分高胤、「賀端節啓」尺牘、「文字部首三」、「海」清杜亜泉、「海水浴」依田朝宗、「采珠」清蔣維喬、「論語抄四」、「山亭夏日」唐高駢「臨平道中」宋僧道潛、「求写字」尺牘、「替友求字啓」尺牘、文字形声、「牆起於欲」近古史談、「白石友誼」先哲叢談、「二友」文学初階、「千里結言」後漢書、「論語抄五」、「夏画」大窪行、「懐友」尺牘、「慰被水」尺牘、「時令便用」、「論語抄六」、「餽贈」尺牘、「回答」尺牘、「時令便用」、「論語抄七」、「招飲」尺牘、「回答一」、「又二」、「時令便用」、「嵐峡賞紅樹記」菊池純、「当以三餘」魏志、「勧学」文学初階、「読書之法」室直清、「論語抄八」、「賀秋節」尺牘、「時令便用」、「遊須磨明石記」原文斎藤正謙、「論語抄九」、「十五夜望月」唐・王建、「江楼書感」趙嘏、「送魏十六還蘇州」皇甫冉、「寄友人赴晃山観楓」尺牘、「答」、「時令便用」、「台湾之勝」依田朝宗、「大日本琉球藩民五十四名墓誌」西郷従道、「論語抄一〇」、「桂林荘雑詠示諸生」広瀬建、「又」、「借書」尺牘、「餽友螃蟹」尺牘、「回答」、「時令便用」、「三貂嶺路」、「曹謹」原文淡水庁志、「論語抄一一」、「冬夜読書」菅晉帥、「冬夜聴雨戯作」宋・陸游、「除夜作」唐・高適、「餽友紙」尺牘、「餽友筆」尺牘、「時令便用」、「報徳教」中村正直、「慣労苦」名賢言行録、「論語抄一二」、「探春」宋・戴益、「休日訪人不遇」唐・韋応物、「問疾」尺牘、「慰失火」尺牘、「標工」坂谷素、「論語抄一三」、「蚕婦」無名氏、「憫農」李紳、「久別問候」尺牘、時令便用、「論語抄一四」、「賀新禧記啓」尺牘、「復啓」、「宜務公益」土屋弘、「論語抄一五」、「梅影」山梨憲、「春初書感」安積信、「席上賦得春寒花較遅」村上剛、「春候謝恵」尺牘、「邀談」尺牘、時令便用、「明治孝節録序」元田永孚、「東涯戒弟」重野安繹、「論語抄一六」、「送元二使安西」唐・王維、「東都送平子和之参州」山県孝孺、「留別」尺牘、「送行」尺牘、「鬻蕎麺者伝」中井積徳、「弟子職」管子、「論語抄一七」、「明治二十二年紀元節恭賦盛事」伊藤博文、「邀友過訪」尺牘、「又」、「亡教育者招魂碑文」後藤新平、「三不祥」荀子、「礼儀之始」冠儀、「論語抄一八」、「江南春」唐・杜牧、「春夜」宋・王安石、「春夜」宋・蘇軾、「弔喪父」尺牘、「慰喪子」尺牘、「嵐山桜花」斎藤正謙、「温公力誡一」原文劉宗周及十八史略、「温公力誡二」原文小学等、「請問礼」曲礼、「同行礼」王制、「論語抄一九」、「落花」唐・李白、「寒食汜上」王維、「賀友祖寿」尺牘、「慶賀套語」、「家訓」清・曾国藩、「筆説」明・童品、「書話」慎思録、「書有六体」岡田正之、「空海能書」皇朝史略、「精神之福」中村正直、「食力無已時」依田朝宗、「四知」唐・李瀚、「知識与道徳」沢柳政太郎岩垂憲徳。

⑱『師範学校台語科用漢文読本』（台湾総督府台南高等師範学校校友会、昭和二年）。

「人子之礼」、「伯兪泣笞」、「下公門」、「虞芮之争」、「公園」、「宜務公益」、「七歩之才」、「動物之言語」、「台湾師範生徒教養之要旨」、「択鄰」、「居室」、「戒遊惰」、「今人不知兄弟之愛」、「日記」、「漢詩」五言五題（「送別」・「雑詩」・「夜思」・「登鸛鵲楼」・「江雪」）、「合羣之利」・「論言」（附白話体）、「全体生活」、「古硯銘」、「都会与郷村」、「論語抄」一～六、「学則」、「職業」、「漢詩」七言八題（「同郷偶書」・「早発白帝城」・「桂林荘雑詠示諸生」広瀬建・「江楼書感」・「宴城東荘」・「題灌山小隠」・「寄子」）、「韓信出胯下」、「圯端捧履」、「漢三傑」、「論語抄」七～十一、「日記故事抄」三則、「故事」三則、「孝経抄」一・二、「交通銀行広告」、「統一国語之先声」、「漢詩」五言六題（「行宮」・「尋隠者不遇」・「渡漢江」・「独坐敬亭山」・「見渭水思秦川」・「飲酒看牡丹」）、「宴会」、「三字経抄」一～三、「為学一首示子姪」（附白話体）、「報紙」、「愛竹説」、「菊」、「漢詩」五言七題（「清夜吟」・「盛事」・「蠶婦」・「春早」・「春暁」・「新年作」・「春日憶李白」）、「博愛」、「論自治」、「論奢侈之害」、「座右銘」、「有恆」、「生財之本」、「慈烏夜啼」、「黄生借書記」（附白話体）、「遊大字院記」、「静修倹養」、「曹謹」、「神武天皇」、「忠孝一本」、「漢詩」五言七言八題（「夜雨」・「竹雨館」・「八陣図」・「南菜園」・「三月晦日送春」・「銷夏詩」・「烏江廟」・「玉関寄長安李主簿」、「信教自由」、「権利義務説」、「招買報紙広告」（附白話体）、「新体詩与新派詩」各一題、「介之推不言録」、「家庭教育」、「漢詩」五言四題（「子夜呉歌」・「臨洞庭上張丞相」、「春望」、「幽居」）、「熱心与野心」、「無恕軒記」、「少年行」（附白話体）、「明治孝節録序」、「樵者伝」、「漢詩」七言八題（「芙蓉楼送辛漸」・「涼州詞」・「蘇台覧古」・「黄鶴楼送孟浩然之広陵」・「逢八京使」・「泊秦淮」・「春夜洛城聞笛」）、「聖寿無疆」、「田中井記」、「大日本琉球藩民五十四名墓誌」、「知己説」、「帰去来辞」、「論道無彼此」、「五妃墓幷詩」、「漢詩」七言八題（「台湾気候」・「老牛」・「蚊」・「爆竹」・「思想樹」・「考来嬌」・「梅」・「尽山水自題」）、「孟子抄」一～四、「燕詩示劉臾」、「孟子抄」五～七、「振作国民精神大詔」、「漢詩」七言八題（「観書有感」・「雨夜寄北」・「山中問答」・「再到洛陽」・「元旦」・「寒食」・「清明」・「送春」）、「前赤壁賦」（附白話体）、「後赤壁賦」、「大学抄」、「中庸抄」、「師説」、「漢詩」七言六題（「淮上別故人」・「金陵図」・「望廬山瀑布」・「逢呉秀才復送帰江上」・「秋日偶成」・「曲江」）、「新修芝山巌記」、「蘭亭記」、「卜居」、「漁父辞」、「宋玉対楚王問」、「蘭相如完璧帰趙論」、「陳情表」、「古歌」五題、「十八史略抄」一～五、「古詩」両題、「秋声賦」、「演説」、「阿房宮賦」、「漢詩」七言八題（「春日雑詩」・「春思」・「春行寄興」・「初夏」・「初夏」・「即事」・「夏画偶作」・「暑夜」・「山亭夏日」）、「前出師表」、「後出師表」、「論毅力」、「漢詩」五言四題（「遊子吟」・「送友人」・「小隠自題」・「感遇」）、「岳陽楼記」、「正気歌」、「超然台記」、「祭十二郎文」、「答蘇武書」、「阿里山蕃通事呉元輝碑」、「漢詩」七言四題（「蜀相」・「黄鶴楼」・「登金陵鳳皇台」・「赤壁城」）、「治家格言」、「教育令実施諭告」、「分贈寿章」、「教条示龍場諸生」、「馮煖客孟嘗」、「漢詩」七言八題（「秋懐」・「中秋望月」・「秋夕」・「九日」・「秋園踏月」・「立冬」・「寒夜」・「除夜作」）、「詩経抄」一・二、「養生主」、「進学解」、「漢詩」七言四題（「客至」・「九日登望仙台呈劉明府」・「示児」・「任台湾総督書感」）、「滕王閣序」、「皇太子殿下行啓頌徳表」、附：「用字例」・「論文法」・「韻字」・「詩之平仄配置法式」・「漢土歴代表」。※訓点なし、日本語書き入れあり。

Ⅲ　朝鮮（戦前）

⑲『中等教育朝鮮語及漢文読本』巻五（朝鮮総督府、昭和十一年か）。

〔朝鮮語の部〕※省略。

〔漢文之部〕「師説」韓愈、「稼圃亭記」李瀷、「授時按説」朴趾源、「喜雨亭記」蘇軾、「書呉道子画後」蘇軾、「西洋人画竹屏」沈鋠、「附僧五岳題桃源図詩」（※平野五岳）、「岳陽楼記」范仲淹、「秋声賦」欧陽修、「播穀按説」朴趾源、「大日本維新史序」重野安繹、「刻李退渓書抄序」古賀樸、「性字説」河崙、「浩然之気」孟子、「天命之謂性」中庸、「恩門牧隠先生文集序」権近、「祭星湖先生文」安鼎福。

⑳『中等教育漢文読本』巻一（朝鮮総督府、昭和五年）。

〔前篇〕「音訓」、「音訓」、「句例」（句読点・送仮名）、「句例」（句読点・送仮名）、「世界之公園」、「句例」（句読点・送仮名）、「句例」（返点レ）、「射石没鏃」蒙求、「句例」（返点一二）、「冀有益於国家」角田簡、「句例」（返点一二三）、「句例」（返点）、「読書之楽」塩谷世弘、「句例」（返点上中下一二三）、「孝之始終」孝経、

「伯兪悲泣」説苑、「句例」、「学為人」中村和、「人生之長短」中村正直、「句例」、「師」清林奎、「重節」安井衡、「孟母断機」新序、「勧学文」朱熹、「童話桃太郎一、二」、「摂養」佐藤坦、「健康」中村正直、「言語・飲食」程顥、「格言」三則、「早起之益」重野安繹、「浴潮之効」依田百川、「恃長日拙」中村和、「童話亀兎競争」、「兄弟」会沢安、「元就戒子」中村和、「頭尾争一」土屋弘、「頭尾争二」同、「筆」、「墨」、「紙」後漢書、「東海道第一之勝」斎藤馨、「瀬戸内海一」市村瓚次郎、「瀬戸内海二」同、「用財法」貝原篤信、「不欲使習箸」角田簡、「咬菜軒」中村和、「格言」三則、「烏好諛」清荘兪、『択友』広瀬建、「慎所与処者」孔子家語、「白石篤友改修」原善、「格言」三則、「勧農詔」青山延于、「甘蔗先生」巌垣松苗、「兼山遠慮」原善、「山林之利」重野安繹、「焼紅葉」青山延于、「泝天龍川」林長孺、「始至欧洲」重野安繹、「義農救飢」巌垣松苗、「記甚助事一」中村正直、「記甚助事二」同、「殺身革悪習」、「文明之一大恩人一」、「文明之一大恩人二」、「五条誓文」大日本維新史、「教育」三島毅、〔後篇〕「皇朝史略抄」一～八、「日本外史抄」一～一〇、「前言往生録」一～録、附録。※訓点送り仮名あり。

㉑『中等教育漢文読本』巻三（朝鮮総督府、昭和五年）。

〔前篇〕「進学喩」柴野邦彦、『桂林荘雑詠示諸生』広瀬建、「阿児模刺的二子」依田百川、「林子平伝其一」斎藤馨、「林子平伝其二」斎藤馨、「山田長政伝其一」斎藤正謙、「山田長政伝其二」斎藤正謙、「下岐蘇川記」斎藤正謙、「早発白帝城」李白、「鍛工助弘伝」菊池純、「馬陵之戦」十八史略、「馬陵道」魏荔彤、「読孟嘗君伝」王安石、「信陵君救趙」十八史略、「毛遂自薦」十八史略、「商君変法」十八史略、「始皇政治」十八史略、「焚書坑」章碣、「桃花源記」陶潜、「高祖評三傑」十八史略、「漢文帝之治」十八史略、「馬援戒兄子」十八史略、「太宗論治道」十八史略、「山亭夏日」高駢、「夏夜追涼」楊万里、「開元之治」十八史略、「舜之徒」孟子、「鬻蕎麺者伝」中井積徳、「蝸説」松崎復、「山房観楓記」斎藤正謙、「巨盃其一」依田百川、「巨盃其二」依田百川、「日本海之開戦其一」依田百川、「日本海之開戦其二」依田百川、「旅順表忠塔記代作」塩谷時敏、〔後篇〕啓蒙編：「国家興学之意」李滉、「教子」姜希孟、「始終六字」宋時烈、「事親」李滉、「此身父母之遺気」李珥、「兄弟相愛」李珥、「接人之道」李珥、「択友」李珥、「莫如自修」李珥、「慎言語」金安国、「慎思録鈔」二十三編、「小学鈔」八編、「論語鈔」。※訓点送り仮名あり。

㉒『中等教育漢文読本』巻四（朝鮮総督府、昭和五年）。

〔前篇〕「三計塾記」安井衡、「忍窩記」洪良浩、「勅諭陸海軍人」重野安繹、「梅渓遊記」斎藤正謙、「山園小梅」林逋、「与呉仁遠」李滉、「春夜宴桃李園序」李白、「江南春」杜牧、「春夜」蘇軾、「楠氏論」頼襄、「書漁父歌後」李滉、「唐虞之治」十八史略、「農謳」姜希孟、「禹湯之政」十八史略、「漢土開化」支那通史、『商法必読書』亀谷行、「猿橋」物茂卿、「送東陽馬生序」宋濂、「送元二使安西序」王維、「送人」鄭知常、「教条示龍場諸生」王守仁、「半部論語佐太祖」十八史略、「孔子」十八史略、「孔門三子」許穆、「耶馬渓図巻記」頼襄、「答李大成」李滉、「秋日偶成」程顥、「独楽園記」司馬光、「池無名伝」安積信、「記承天夜遊」蘇軾、「八月十五夜」李荇、「陶淵明」通鑑綱目、「五柳先生伝」陶潜、「無題」李崇仁、「即事」趙云仡、「幼学綱要序」元田永孚、「降中之対」資治通鑑、「桟雲峡雨日記」竹添光鴻、「出師表」諸葛亮、「蜀相」杜甫、〔後篇〕「言志録抄」二十三編、「続近思録抄」七編、「近思録抄」九編、「論語抄」。※訓点、朝鮮人学生による日本語書入れあり。

◎現在（国語・古典教科書B）

㉓『精選古典B　漢文編』（教育出版株式会社、平成三十年）。※指導書あり。

「世説新語」、「韓非子」、「五雑組」、「説苑」、「史記」、「鹿柴」王維、「涼州詞」王之渙、「望廬山瀑布」李白、「月夜」杜甫、「詩経」、「飲酒」陶潜、「漁父辞」屈平、「桃花源記」陶潜、「論語」、「孟子」、「荀子」、「老子」、「荘子」、「韓非子」、「三国志」、「十八史略」、「世説新語」、「文選」、「子夜呉歌」李白、「売炭翁」白居易、「売油翁」欧陽脩、「送薛存義序」柳宗元、「史記」、「老子」、「荘子」、「荀子」、「韓非子」、「論語」、「捜神記」、「本事詩」、〔日本の漢詩文〕：「九月十日」菅原道真、「冬夜読書」菅茶山、『桂林荘雑詠示諸生』広瀬淡窓、「題

自画」夏目漱石、「信玄と謙信」頼山陽。

㉔『新編古典B』（東京書籍株式会社、平成二十九年検定済、平成三十年発行）。
※指導書あり。
「呂氏春秋」、「世説新語」、「戦国策」、「後漢書」、「史記」、漢文の窓①「故事成語」、「宿建徳江」孟浩然、「鹿柴」王維、「秋風引」劉禹錫、「静夜思」李白、「磧中作」岑参、「楓橋夜泊」張継、「登岳陽楼」杜甫、「登高」杜甫、「香炉峰下、新卜山居草堂初成、偶題東壁」白居易、「雑説」韓愈、「桃花源記」陶潜、「史記」、漢文の窓②「捲土重来」、「荀子」、「韓非子」、「呂氏春秋」、「淮南子」、「列子」、「十八史略」、参考：「星落秋風五丈原」土井晩翠、漢文の窓③「三国志」、「十八史略」、「桃夭」、「上邪」、「飲酒」陶潜、「子夜呉歌」李白、「長恨歌」白居易、参考：「桐壺」、「史記」、「論語」、「孟子」、「荀子」、「老子」三編、「荘子」、漢文の窓④「儒家と道家」、〔日本の漢詩文〕：「桂林荘雑詠示諸生」広瀬淡窓、「送夏目漱石之伊予」正岡子規、「風流人未死」夏目漱石、「所争不在米塩」日本外史、「諸将服信玄」日本外史。

㉕『高等学校古典B　漢文編　改訂版』（三省堂、平成二十九年検定済、平成三十年発行）。※指導書なし
「世説新語」、「笑府」、「後漢書」、「蒙求」、「西京雑記」、「説苑」、「鹿柴」王維、「秋浦歌」李白、「宿建徳江」孟浩然、「早発白帝城」李白、「芙蓉楼送辛漸」王昌齢、「楓橋夜泊」張継、「送杜少府之任蜀州」王勃、「春夜喜雨」杜甫、「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」白居易、「遊山西村」陸游、古典の扉「李白と杜甫」、「史記」、「漁父辞」屈原、古典の扉「漁師と隠者」、「春夜宴桃李園序」李白、「愛蓮説」周敦頤、「送薛存義之任序」柳宗元、「論語」、「孟子」、「荀子」、「老子」、「荘子」、「売鬼」干宝、「陸機之犬」述異記、「人虎伝」李景亮、〔日本の漢詩文〕：「冬夜読書」菅茶山、「泊天草洋」頼山陽、『桂林荘雑詠示諸生』広瀬淡窓、「送夏目漱石之伊予」正岡子規、「題自画」夏目漱石、「航西日記」森鷗外、古典の扉「日本の漢詩文」、「列女伝」、「韓非子」、「説苑」、「十八史略」、「三国志」、「十八史略」、「十八史略」、「桃夭」、「陟岵」、「行行重行行」、「生年不満百」、「秋風辞」漢武帝、「飲酒」陶潜、「把酒問月」李白、「兵車行」杜甫、「人面桃花」孟棨、「三夢記」白行簡、「劉幽求」、「魚服記」李復言、「史記」、「孟子」、「荀子」、「老子」、「荘子」、「列子」、「韓非子」、「墨子」、「売油翁」欧陽脩、「捕蛇者説」柳宗元、「赤壁賦」蘇軾、「師説」韓愈。

㉖『精選　古典B　改訂版』（大修館書店、平成三十年）。
「助長」、「知音」、「画竜点睛」、「漱石枕流」、「糟糠之妻」、「塞翁馬」、「史記」本紀、漢文の窓①「司馬遷の視点―歴史を見つめる眼」、「尋胡隠君」高啓、「竹里館」王維、「秋浦歌」李白、「江南春」杜牧、「哭晁卿衡」李白、〈参考〉「唐土にて月を見てよみける」安部仲麻呂、「磧中作」岑参、「送友人」李白、「月夜」杜甫、「登高」杜甫、「咸陽城東楼」許渾、〔わが国の漢詩〕：『桂林荘雑詠示諸生』広瀬淡窓、『将東遊題壁』月性（清狂吟稿）、「題自画」夏目漱石、〔言語活動〕：「詩人の紹介文を書こう―李白と杜甫」、漢文を読むために1「漢詩の形式と表現」、「桃花源記」陶潜、「捕蛇者説」柳宗元、「論語」、「孟子」、「荀子」、「孟子」、「論語」、「論語」、「孟子」、「定伯売鬼」干宝、「定婚店」李復言、基本句法まとめ、再読文字まとめ、「長安何如日遠」、「不死之薬」、「売油翁」、「仁斎赤貧」、「史記」列伝、「桃夭」、「行行重行行」、「飲酒」陶潜、「子夜呉歌」李白、「石壕吏」杜甫、「売炭翁　苦宮市也」白居易、漢文を読むために②「文の形式と表現」、「師説」韓愈、「春夜宴桃李園序」李白、「老子」、「荘子」二編、「韓非子」二編、「老子」、「墨子」、「韓非子」、漢文を読むために③「諸子百家の思想」、〔長恨歌と日本の文学〕：「長恨歌」白居易、「源氏物語」翼をならべ、枝をかはさむ（紫式部）、「更級日記」七月七日（菅原孝標の女）、「枕草子」梨花一枝（清少納言）、「人虎伝」李景亮、漢文の窓②「「人虎伝」と「山月記」」。

【註】

（注1）公学校高等科は、高等小学校に相当するもので、主に台湾人子弟が通学していた。戦前期台湾で使用された公学校の漢文教科書は、古典をあまり採録せず、かわりに漢文による近代的知識（地理・衛生）や、文書（書翰・領収書・借用書・督促状・案内状）など実用的なものを多く採録している。戦前期台湾の公学校で使用された漢文教科書については、拙稿

「戦前期台湾公学校の漢文教科書について」（王小林・町泉寿郎編『日本漢文学の射程―その方法、達成と可能性』、汲古書院、二〇一九年）を参照されたい。

（注2）本書は、各作品の末尾に出典を明記しているものの、平野五岳の本作品については明記されていない。

（注3）加藤虎之亮（号天淵、一八七九～一九五八）は当時、大学・高校で漢文を教えるほか、香淳皇后に漢文学の御進講を行っていた。加藤は、このほか『皇国漢文』（昭和十二年）の編纂を行っている。

（注4）豫科練で使用された『飛行豫科練習生用　漢文参考書』（小畠歓一編、第十一聯合航空隊、昭和十四年六月。海原会および防衛研究所蔵）は、頼山陽『日本外史』を鈔録する。

（注5）指導要録・学習指導要領等に関しては、菊地隆雄氏よりご教示を賜った。

（注6）菊地隆雄氏のご教示による。

（注7）菊地隆雄氏のご教示による。

【附記】

本稿は、咸宜園教育研究センター研究奨励事業「漢文教科書および漢詩集に採録された咸宜園関係者の漢詩文に関する研究」および科研費「戦前期に日本国内（内地）・台湾・朝鮮で使用された漢文教科書に関する基礎的研究」（研究課題番号 18K02316、研究代表者：町泉寿郎二松学舎大学教授）による研究成果の一部をなすものである。

【謝辞】

本稿執筆にあたって左記の方々、機関には、資料の閲覧・撮影等に御高配を賜りました。厚く御礼申し上げます。

板橋奈美、海原会、江頭真哉、翁聖峯、加藤忠正、咸宜園教育研究センター、菊地隆雄、黄美娥、白柳弘幸、専念寺、玉川大学教育博物館、淡窓研究会、徳永三好、中村聡、二松学舎大学東アジア学術総合研究所、二松学舎大学附属図書館、故廣瀬貞雄、廣瀬資料館、武器学校、防衛研究所、町泉寿郎、安井健、陸上自衛隊広

報センター

（※五十音順、敬称略）